



高原の自然館ニュースレター

苜尾電波塔

第8号

2004. 8. 1

高原の自然館

苜尾（かりお）とは、広島県芸北町にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- 『フィールドガイド芸北の自然』を発売
- 「湿原の植物と昆虫観察会」の様子、中国新聞で報道
- 自然館のホームページをリニューアル

活動報告

- 湿原の植物と昆虫
- 昆虫の観察会

観察会案内

- 植物標本とスケッチのつくりかた
- バードコールを作ってみよう

花だより

- ビッチュウフウロ
- トモエソウ
- オオハンゴンソウ

お知らせ

『フィールドガイド芸北の自然』が発売されます
(2004.8.10)

芸北の生物を紹介した小さな図鑑、『フィールドガイド芸北の自然』が発売されます。この本は、植物120種、昆虫60種、魚類7種、両生類13種、爬虫類5種、鳥類50種、哺乳類10種について、特徴や観察時期、生息環境について解説しています。もちろん、すべての種について写真も掲載しています。

『フィールドガイド芸北の自然』

【価格】1,500円

【編集・発行】芸北町教育委員会

【協力】西中国山地自然史研究会

「湿原の植物と昆虫観察会」の様子が中国新聞で報道されました
(2004.7.5)

7月4日に行われたイベント「湿原の植物と昆虫」が、7月5日発行の中国新聞（朝刊紙面）で紹介されました。

自然館のホームページをリニューアルしました
(2004.7.10)

見た目には地味な更新ですが、内部では大きな変更を加えています。「見にくい」「乱れる」などの不具合がありましたらお知らせください。

活動報告

湿原の植物と昆虫

開催日時：7月4日（日）10：00～
集合場所：高原の自然館
主催：西中国山地自然史研究会
協力：高原の自然館、芸北町民文化ホール

台風接近で突風の吹く中、声もかき消されがち、人も飛びそうな観察会には24名の参加がありました。カキツバタ農園前で湿原についての解説があり、林道沿いを植物・昆虫の話聞きながら、進みました。遅いササユリが香り、オカトラノオが咲き始め、ノハナショウブの清楚さに見とれる。ヒロシマサナエを捕獲、観察後リリース。ツキノワグマの爪痕があり、珍客として、ノウサギが捕獲され、「カワイイ～」と写真撮影ですが、小さい心臓がバクバクしてるので、これもすぐにリリース。つぼみの物、まだ葉っぱだけのもの、これからが楽しみな、湿原の観察会でした。新川ため池のまわりをぐるり回るのは、この人数では、なかなか難しかったかもしれません。皆さん満足していただけたでしょうか？以下が、今回観察された植物・昆虫の一覧です。

【植物】

ノアザミ・ユウスゲ・ノハナショウブ・クサレダマ、ウツボグサ、ササユリ、ハンカイソウ、バイケイソウ、カキラン、ヤマトミクリ、ジュンサイ、イヌウメモドキ、エゾミソハギ、モウセンゴケ、ノリウツギ、オカトラノオ、クリ、ノギラン、コオホネ、フトイ、カンガレイ、シロバナニガナ、チュウゴクザサ

【昆虫（トンボ）】

モノサシトンボ、ノシメトンボ、ヒロシマサナエ、コサナエ、クロスジギンヤンマ、オオヤマトンボ、オニヤンマ、マユタテアカネ、クロイトトンボ、オオイトトンボ、シオカラトンボ、シオヤトンボ、ニシカワトンボ

【昆虫（その他）】

オオツノトンボ、トゲカメムシ、ハルゼミ、ゴイシジミ、オオトビサシガメ、クロヒカゲ、メスグロヒョウモン、ヒメキマダラセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ヒメシジミ

【その他】

トノサマガエル、シマヘビ、ノウサギ



これから出発です。



ゴイシジミは幼虫がササに付いたアブラムシを食べる。



虫がとまるとその重さに反応して、受粉のため花粉を出す。



バイケイソウ，少しにおう。



ノシメトンボを撮る人，シュレーゲルアオガエルを撮る人。



オニヤンマの抜け殻，羽化の環境も様々だが，条件にあった場所の減少で羽化がむずかしくなっている。



キハダの倒木あり，薬用，飲み過ぎに効く。



古いけど，ツキノワグマの爪痕。



モウセンゴケは小さくて，みんな地面にへばりつくようにして，観る。

活動報告

昆虫の観察会（昆虫相調査）

開催日時：7月24日（土）18：30～

集合場所：高原の自然館

主催：西中国山地自然史研究会

協力：高原の自然館、芸北町民文化ホール

夕立・雷と天候が心配されましたが、18:30には雨も上がり、「暑いですね」の職員に「広島は34℃、10℃違います！」の毎年恒例の清水先生と15名の参加者。今年は少し早めの観察会で甲虫を期待したのですが、カゲロウ・カナブン・カメムシがまず登場。網・虫かご持参の子どもには今年も残念な結果に…。持参した青虫の写真を先生に観ていただいたり、春の毛虫のことを質問したり、だんだん蛾が増えてきて、逃げ出す子も出てきたり…と、いろいろありましたが観察会無事終了しました。清水先生には昨年採取の標本を持参していただきました。ありがとうございました。

講師の清水先生からは次のコメントを頂きました。

「平成16年7月24日湿原復元の実験地（土嶽）前で行った。夜の昆虫観察といってもライトアップに集まる虫を眺めてみようといった軽い乗りの観察会である。月令が最も重要な条件になるが、月令7.7と月はやや大きくなっていたが、風、気温等の条件はまずまずで期待したが、コガネムシ類、カメムシ類、小型のトビケラ類、カゲロウ類、双翅類等多数飛来した。その多くの虫の中で、参加した方々の注目を集めた種類は姿、形の大きなオオツノトンボ、ヘビトンボ、ガムシ、クロカミキリ、オオミズアオ等があった。カブトムシ、クワガタムシはまったくだめで、子供達には残念な結果に終わったが、夜も多くの昆虫が活動していることは、十分おわかり頂けたと思っています。私が興味をもっている蛾類はまったく駄目でした。採取或いは観察した蛾類（*印の付いたものは観察のみ）

*ゴマフボクトウ、*ヤマトカギバ、ムラサキエダシャク♀、*オオミズアオ、エゾシモフリスズメ♀、モモスズメ♀、ウンモンズメ♀、ミスジビロウドスズメ♀、ホソバシャチホコ♀、オオネグロシャチホコ♀、*ヘリ

スジシャチホコ、ナカキシャチホコ♀、クワゴモドキシシャチホコ♀、*セダカシャチホコ、*シロヒトリ、オオケンモン♀、ウスベリケンモン♂、ゴマケンモン♂、ネグロケンモン♂、キシタケンモン♂、*キタバコガ」



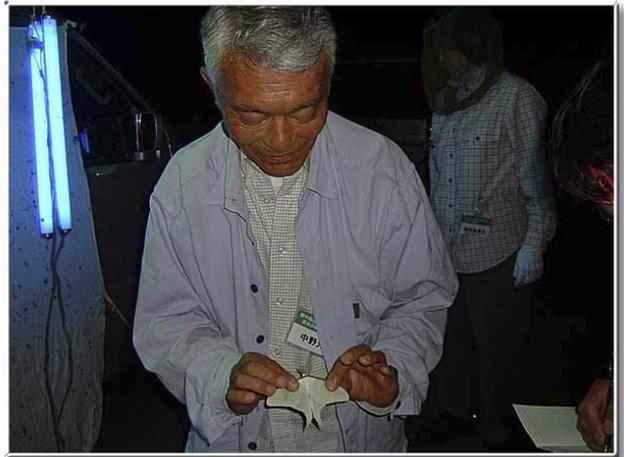
昆虫を採取して酢酸エチルを染み込ませた瓶に入れる。



18:30はまだ明るくて、昆虫来るの？先生のお話を真剣！に聞く。



だんだん暗くなり，期待が高まる.



オオミズアオ



オオツノトンボ



虫眼鏡で拡大して観るとなかなかきれい…不思議.



観察会風景を撮影中.



ブトの攻撃，虫の激突に耐えながら
…

観 察 会 案 内

● 植物標本とスケッチの作りかた

植物のことを知るために必要な方法を勉強します。野外に出て観察するのは大事なことです。それだけでは気付かないこともたくさんあります。もっと深く植物を知るために、レベルアップしませんか？

開催日時：8月8日（日）9：30～

講師：斎藤隆登・佐久間智子

集合場所：八幡高原センター

準備：植物4つ以上

- ・採取日と場所を記録すること
- ・盗掘禁止
- ・標本にしたいものを3つ、スケッチにしたいものを1つ
- ・しおれないように工夫して持ってきて下さい

新聞紙3日分

ダンボール2枚

- ・30cm×45cm以上の大きさ

鉛筆、弁当、ルーペ、ノート等

（◆かりお茶屋もご利用いただけます）

定員：30名（必ず予約をしてください。）

参加料：1,000円（ただし、会員は無料）

－ インターネット版のご紹介－

苅尾電波塔はe-mailでも発行されています。また、高原の自然館ホームページからはpdfファイルをダウンロードできます。インターネットを利用すれば、関連ホームページにジャンプしたり、写真をカラーで見られたりと、便利です。

高原の自然館では、紙資源の節約と事務処理の軽減のため、インターネットの利用をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。

最近、自転車に乗っています。

車で走っている時には気付かなかつたり、気付いてもそのまま通り過ぎていた場面に立ち止まることが多くなりました。古代八幡湖が作った八幡盆地に自転車。これはオススメの組み合わせですよ！

● バードコールを作ってみよう

「バードコール」とは、木や金属をこすり合わせて鳥の鳴き声に似た音を出す道具です。、野外でバードコールを使うと、野鳥は侵入者がやってきたと勘違いして、ストレスを与えることになりかねないので、近頃ではどちらかという玩具やアクセサリとして所有することの方が多いようです。

開催日時：8月22日（日）9：30～

講師：暮町昌保・山本保秀

集合場所：八幡高原センター

準備：作業のできる服装、小刀（大きめの
カッターナイフ）等

定員：30名（必ず予約をしてください。）

参加料：1,500円（ただし、会員は500円）

花 だ よ り

夏休みの到来とともに盛夏を迎えた八幡は、本当に暑い一週間があつという間に過ぎ去りました。「残暑」という言葉とは縁の無い八幡では、野原にそよぐ風はもう既に秋の気配を含んでいます。夏の名残の花と秋の草花が咲きそろう季節です。

【ビッチュウフウロ】

きれいな緑色の葉を茂らせた中に点々と咲く姿がかわいらしい桃色の花。

【トモエソウ】

5枚の黄色い花弁がそれぞれ同じ方向に曲がって「巴」を成す草原の花。

【オオハンゴンソウ】

千町原に大群落を作っている帰化植物。日本へは明治中期に観賞用として移入されたが、逸出して、現在では至る所で見られる。一斉に開花した黄色い花はなかなか見事。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡芸北町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://town.geihoku.hiroshima.jp/nature/>

nature@town.geihoku.hiroshima.jp